

子どもドクター、模型の骨でオペ体験 神戸の病院でイベント



本物の医療機器を使って手術を体験する子どもたち＝神戸市中央区港島南町1

子どもたちが医師となり、手術を体験するイベントが27日、神戸・ポートアイランドのあんしん病院で開かれた。小学生から高校生までの30人が参加。青い手術衣に身を包み、本物の手術室と医療機器を使って、骨折などの治療法を学んだ。

神戸ポートピアホテルが毎年開く「夏休み子ども教室」のメニューの一つ。手術体験は初めて企画した。

この日は2種類の整形外科手術に挑戦。骨折の治療では、模型の骨に金属プレートをねじで取り付け、患部を固定した。腱を切断した患者の手術は、医師らが練習で使う人形を用いて体験。内視鏡によって肩の内部を画面に映し出し、骨に打ち込んだくさびと腱とを糸で結ぶなどした。

子どもたちは、医師にコツや注意点を聞きながら、一つ一つ丁寧に手順をこなした。西宮市立瓦林小6年の男子児童（12）は「慣れてくるとうまくできるようになった」と満足そうだった。

同病院の岩崎安伸院長は「医療は大きく変化している。将来の医療を担う世代が、医師の仕事に関心を持ってくれればうれしい」と話していた。（武藤邦生）